兵庫県公立高校 令和３年度入試分析　数学

～公文式数学で入試もバッチリ～

　50分、100点満点のテストです。例年の平均点は50点前後で、平成30年度は54.9点、31年度は51.7点、令和2年度は52.3点でした。

**試験当日は難しそうな問題に目が行くかもしれませんが、あわてる必要はありません。なぜなら、入試（特に高校入試の数学）は満点を狙うものではなく、合格最低点（合格するために必要な得点）を１点でも超えることを狙うべきものだからです。必ず出題される基本問題を素早く解き、応用問題を解く時間を少しでも多く残して落ち着いて考えることが大切です。合格点を取るのに最も必要なのは、公文式で身に着けた、速くて正確な計算力**です。

大問１は例年、基本的な問題が出題されます。今年は８題各３点で24点でした。配点が大きいのでミスに注意しましょう。10分以内で全問正解したいところです。

　基本的な計算である「正負と文字式の計算(Ｇ21～160)」、「１次方程式(Ｇ161～200)」「連立方程式(Ｈ21～70)」、「因数分解(Ｈ151～200)」「平方根(Ｉ21～50)」「２次方程式（Ｉ51～80）」がスラスラできるのはもちろんのこと、応用問題として出題されることの多い「方程式の応用問題(Ｈ91～110)」「1次関数(Ｉ101～140)」「2次関数(Ｉ141～170)」もトレーニングを積んでおきましょう。大問２や大問４はその典型です。

図形問題に対処するために、**「三平方の定理」(Ｉ171～200)**で扱う「三平方の定理」・「相似」・「特別な直角三角形」・「補助線」の考え方は自在に使いこなせるようにしましょう。

証明問題は必ず出題されるので、定理を覚え、証明の型を使いこなせるように練習しましょう（大問3(1)今年は三角形の相似の証明）。最近は「資料の活用」（度数分布）の問題も入試に頻出です（大問1(8)）。最頻値、平均値、中央値は必ず出題されるので、求め方を何度も練習しましょう。**証明も度数分布も、学校の教科書やワークで問題練習を積んでおけば絶対に大丈夫です。**

今年も昨年同様、大問６では数学的な考え方（規則性）が出題されました。また、大問5も平方数になる数の組み合わせをていねいに数え上げる設問でした。**数学の学習で身につける論理的思考力や、はじめて見る問題でもまずは具体的な数値で試行錯誤を重ね規則性を発見する、というような力が求められています。**

　今年は大問3(4)、大問4(3)、大問6(4)などを難しく感じた受験生が多かったと思います。例年、難しい問題が何問か出題されるので、少し考えて「時間がかかりそう」と思ったものは後に回しましょう。難しい問題と易しい問題で、配点はほとんど変わりません（実際前述の難問もそれぞれ4点、3点、4点です）。ほとんどの受験生が解けない難しい問題を悩むより、基本問題を見直した方が得策です。

**公文で身につけた計算力は、高校入試という大舞台で、最大の武器となります**。また、Ｉ教材を通過点にし、高校教材（Ｊ教材以上）を学習することで、論理的思考力が高まり、応用問題にもひるまずに取り組めます。公文の中学教材までで扱わない単元は、日々の学校の授業を大切にし、教科書レベルをきちんと解けるようにしておきましょう。

《文責　公文教育研究会 姫路事務局 内野》

兵庫県公立高校　令和３年度入試分析　英語

～公文式英語で入試もバッチリ～

　50分100点満点で、30年度の平均点は51.8点、31年度は53.9点、令和2年度は54.2点となっています。

日々の**「音読学習」時、「読みながら分かっている」ことを意識し、英文を書く際にも「読んでから書く」ことを習慣に**しておきましょう。英検3級を早めに受験し、入試のリスニング、長文読解等の出題傾向に慣れておくのもお勧めです。

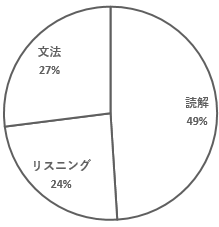
　大問Ⅰのリスニング問題は24点の配点。ＧⅠ教材の1分間に約80語から、ＩⅡ教材の約130語まで、**スモールステップでスピードアップするネイティブの音声をE-Pencilで毎日聞き、リスニング・音読の練習をしている公文生なら、学習の成果を大いに実感出来る**ことでしょう。**「聞いて分かる力」と、「一読して理解出来る読解力」**は、正に日々の公文式英語学習で求められる力、目指すものそのものです。昨年同様、はじめの3問（9点）は1回の放送になり、残りの15点は2回放送の問題でした。

　大問Ⅱは人物の発言の読解、語句並び替えの問題。3人の発言の合計は200語程度、情報量は昨年よりも減ったので解きやすかったと思います。並び替えは〔think you’ll have enough〕、〔want everyone to join〕という解答で難しくありませんでした。

　大問3は長文読解問題。ハザードマップについての文章で、表にまとめたり箇条書きをする中での読解問題でした。**文章量（300～400語）や難易度は上がっていない**と考えられます。**ＨⅠ以降の学習で約１０0語の英文を１分で音読する力が身につくので、出題されている長文を4分程度で大意を掴める**はずです。**リスニングを除く試験時間は限られているので短時間で長文を一読理解出来る力は大きな武器となります**。

大問4は会話文の読解問題。この問題の文章量も約400語でした。問５の内容を要約する問題も、公文の高校教材を解いていれば慣れている形式です。

大問5は文法問題が中心。１は単語（動詞）の書き換え問題で、①〔(be going)to cook〕(不定詞)②〔gave〕（過去形）③〔finishes〕(三単現のes)でした。２は英語で書かれた文を１単語で解答する問題、（１）〔season〕（２）〔breakfast〕（３）〔color〕でした。３は会話文の中に適した熟語入れる問題、①〔At first〕②〔for a long time〕③〔save money〕でした。



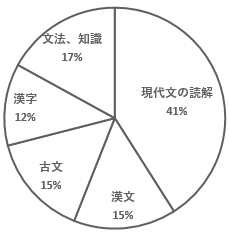
　配点を見てみましょう。左図のように、**最も必要なのは読解力**です。様々な作品を読むＪⅠ以降で、物語を楽しみながら「多読」していくことが最良の対策になります。また、**ＪⅠ以降の教材には、入試の読解問題でよく出るタイプの設問がたくさん出てくるので、「読解問題への解答力」が向上します**。少しでも早くJⅠ以降（高校教材）に入り、少しでも先の教材まで学習することで、**英語を得点源に**しましょう。*You can do it ! !*

《文責　公文教育研究会 姫路事務局 内野》

兵庫県公立高校　令和３年度入試分析　国語

～公文式国語で入試もバッチリ～

50分100点満点。平均点は、平成30年度は60.0点、31年度は57.4点、令和2年度は48.5点。昨年と同じく、資料や記事からの情報読み取り、漢文、古文、現代文２題(小説文と論説文)の計５題が出題されました。



左図のように、**現代文の読解問題が４割以上を占め、**現代文２題の合計文字数は**約５０００字**になります（問題文全体だと約1万字）。文字数は国語の大きな壁のひとつですが、公文の教材（HⅡ教材）に換算すると４枚程度で、日ごろから国語教材に取り組んでいれば全く怖くありません。

　記述問題は、昨年平均点が下がったためか、割合が減りました（大問一の四、大問五の七）。本文中の言葉をそのまま使う設問で、普段から記述問題が多い公文の国語教材を学習していれば安心です。特にＧⅡ教材からは「縮約」という文章を丸ごと圧縮して記述する練習を重ねていくので、他の受験生に差を付けられる問題と言えるでしょう。

今年度は接続語や指示語の問題は単独で出題されませんでしたが、大問五の七などは指示語を追いかけていくことで抜き出しする語句がしぼれます。接続語と指示語を追いかけながら読むことが文章読解の鍵となります。公文の教材ではＥⅠ、ＦⅠ教材でそれぞれ接続語、指示語を学習します。普段から文章の流れや指示語が何を示すのかを意識して読むようにしましょう。

　古文、漢文は現代語の補助や書き下し文があるので、特に構える必要はありません。公文では、高校教材のＪ・Ｋ教材で古文、Ｌ教材で漢文を扱います。ここまで進んでおくと、入試問題はとても簡単に感じるはずです。

　合計29点になる、漢字、文法・知識問題も重要です。各教材の後半にある漢字をしっかり学び、同音異義語等も意識して学習しましょう。教材の文章中に出てきたわからない語句は面倒でも調べて意味を確かめましょう。

　大問五の読解問題は多少難解な文章であるため、読解に時間がかかった生徒が多かったと思われます。GⅡ・HⅡ・IⅡの最後の１０枚（腕試し）には、入試問題も使われているので、本番のつもりで取り組んでみましょう。さらに高校レベルの文章を読んでおくことで、入試レベルが簡単に感じられます。ぜひ高校教材を学習して、余裕を持って入試に臨んでください。

《文責　公文教育研究会 姫路事務局 内野》

高校入試に強い公文式

公文式が高校入試に（大学入試にも）強い理由は、公文式国語・英語が長文読解力の養成を目標に、数学は高校数学に直結する高度な代数計算力の養成を目標にしているからです。

●難関校を目指すなら・・・

　・数学・・・高校教材のＪ・Ｋ・Ｌ教材へと先に進めましょう。

　　　　　　　進学校は授業の進みが速く、中３でＩ教材修了の状態では、高１の１学期から授業についていくのが難しくなります。

　・英語・・・ＬⅡ教材まで進み、英検準２級、２級にチャレンジしましょう。TOEFL Juniorテストにもチャレンジできるはずです。

　　　　　　　難関校進学者は、英検準２級、２級合格者が少なくありません。入学後は、英語力の高い同級生に交じり授業を受けることになるので中３までに準２級以上の合格を目指しましょう。

　・国語・・・高校教材のＪ・Ｋ・Ｌと先に進めましょう。

　　　　　　　高校の古文（Ｊ・Ｋ）漢文（Ｌ）の授業に備え、高校教材以上を学習しておくと高校での古文の授業が楽になります。大学受験、小論文作成のために、長文読解、縮約の練習は大変ためになります。存分に力をつけてください。

●中堅校を目指すなら・・・

　３教科とも、中学校の中２までに（遅くとも中３の夏休みまでに）、中学３年生相当のＩ教材（英語・国語はＩⅡ教材）を終了させることを目標にしましょう。英語は英検3級取得、TOEFL Primaryテストに複数回挑戦することも目標にしてください。Ｉ教材終了後は、Ｊ教材以上でレベルアップをはかりましょう。（特に数学と英語）

●理科・社会について

　入試の理科・社会は、基本的な問題が多いので、以下の学習で対応できます。文字の多い教科書を読んでいくためには国語の力が不可欠です。

　・学校の授業を大切にする。授業内容は、授業が再現できるように、詳しくノートをとる。

　・中１から毎回の中間・期末テストを大切にする。

　・問題集は基本的に学校から配られるワークに取り組めば良い。いきなり答えを書き込むのではなく、３回か４回は別のノートで学習し、できなかった問題にチェックをする。最終的にはすべてできるようになるまで繰り返し学習すること。

　・問題集を使う場合は『基礎がため１００％』（くもん出版）の理科・社会が、中間・期末テストとの類似問題が多く、おすすめです。

●中間・期末テストについて

　中１、中２の中間期末テストの結果も３年間の内申点に影響するので、中１の１学期から気を抜かずに、試験日の２～３週間前から計画的に準備を進めましょう。テスト範囲を間違えないようにしましょう。

●模試について

　中学３年生は複数回受験し、試験本番の雰囲気に慣れていきましょう。

　中学２年生は、年度の最後の受験でいいでしょう。